

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
1	概要版	都市づくりに向けた云々	1.「伊賀らしい都市景観や歴史文化の継承」の“らしい”は要らないと思います。 2.「人口減少の中でも」を「人口減少しても」にした方が実感湧くと思います。 3.「・・・働く場の確保」は、自然環境も水も食料の生産も維持できますから「特に第一次産業を保持し更に働く場の確保」とすることを提案します。	「伊賀らしい・・・」は都市の個性を表現したものと考えます。 「人口減少の中でも」の表現変更については、特に意味に変化はないと考えます。 「・・・働く場の確保」は、指摘の意図も含まれており、それを表題としてまとめた言葉です。	
2	概要版	市民力による内発的発展をめざす	市民の声を真摯に受け止め、協議して発展を目指す、に。	ご指摘の表現では、意味が変わってしまいます。ここでは、市民力により地域産業の振興等の内発的発展をめざすという意味です。なお、18番の回答欄に記した理由により「市民力」を「地域力」に修正します。	
3	概要版	都市づくり目標2	一都市拠点の形成で4つの形に分割した言葉から格差行政を感じます。地域それぞれの特徴を生かした地域が生き生きする言葉を探してください。	都市の拠点機能強化は、人口減少の中でも暮らしやすい都市構造を維持するためには重要な要素と考えます。	
4	概要版	目標6	3川の合流地点の先に狭窄部があり上野市内には液状化した歴史があることを踏まえた学びが必要です。立体地図をもって住民に危険を知らせる。地質を住民が知識として持つよう学びを繰り返す。と加筆。	ご指摘の伊賀の特性は十分理解していますが、目標としては、「都市の安全・安心の向上」とまとめた表現になると考えます。	
5	概要版	伊賀都市マスタープラン地域包括拠点	新堂駅周辺に柘植駅周辺を追加してほしい。	拠点は、駅単独ではなく周辺地域と一体的に位置付けており、JR伊賀上野駅周辺、佐那具駅周辺、柘植駅周辺、近鉄伊賀神戸駅周辺は、公共交通を活用した居住誘導を進める区域と位置付け、拠点型居住地の公共交通活用拠点としています。	
6	P2	1章 全体構想素案	大綱を見ると、行政の広域化に至る道筋では？と感じました。例えば将来が伊賀市と名張市が合併するための手順を踏んでいるのではありませんか。 その手に乗ってしまうと、合併することを前提とした協議だけが進みます。これでは市民の士気が上がると思えません。順番を間違えていると思います。市民の声をパブコメ以外にもっと時間をかけて聞き取り、項目ごとにプランを練る覚悟を持ってくださるようお願いいたします。名張との共同も是々非々で。	課題解決のための広域的連携の必要性は、重要になっていると考えていますが、名張市との合併のための手順を踏んでいるものではありません。	
7	P5	1章4 人口減少	社人研のはじき出した予想人口に抗って40年後の人口を2万人も上乗せしています。その根拠を具体的に示して頂けないでしょうか。現状を見る限り、社人研の予想を超える人口は望めないのではないのでしょうか。	都市マスタープランの目標人口は、2021（令和3）年4月改訂の伊賀市人口ビジョンによるものです。（伊賀市ホームページ参照）	
8	P5	人口フレームの推計	（原文）・・・転入者の増加、転出者を減少さす施策により社会増減を均衡させることで、均衡の取れた人口構造に近づくことで、高齢化率が下がり、・・・ （修正）・・・転入者の増加、転出者を減少させる施策により、均衡のとれた人口構造に近づけ、生産年齢人口・年少人口の・・・	「減少さす施策」は、「減少させる施策」に修正します。	○
9	P6	人口減少が都市に与える影響と都市づくりの課題 問題項目1 都市づくりの主要課題	（意見）項目に挙げた単語と同じ単語をわざわざ使用する必要はないので、次のように文章を修正してはどうでしょうか。 （案）人口の転出を抑え、移住者の増加を図れるよう、魅力的な居住環境と働く場の確保が必要である。また、広域連携の促進により圏域の魅力増進も重要である。 ※P40の文章も同様。	ご意見のとおり修正します。	○
10	P6	人口減少が都市に与える影響と都市づくりの課題 問題項目2 問題項目3 都市づくりの主要課題	（意見）小売店・診療所・小学校児童数のことについて課題を明確化したいのであれば、次のように文章を修正してはどうでしょうか。 （案）小売店や診療所は生活のための都市機能と捉え、市場の論理に任せてしまうのではなく、適切に誘導していくことが必要である。また小学校や公共施設についても、適正化により削減するとはいうものの、人口減少の中でも暮らしやすい都市構造の実現が求められる。	小売店や診療所という主語のない文書でわかりづらい表現であるため、ご指摘のとおり修正します。	○
11	P6	人口減少が都市に与える影響と都市づくりの課題 問題項目4 問題項目5 問題項目6 都市づくりの主要課題	（意見）地域参加の都市づくりの推進が大切だということは伝わりますが、課題と挙げられている文章が、課題の並記なのか、一つの流れのある文章なのか、接続語の読み取りが難しい文章になっています。 加えて、高齢化（すなわち若い世代の定住ができない）の原因は区や組といった中での住民自治における世代間による価値観の相違が大きく存在しており、特に農村地域など昔ながらの「家制度」のようなものが強く残っている地域には、他地域から来たパートナーや移住者の方々にはなじみにくいという声を聞くことがあります。 そこで、一例として次のような文章に修正をしてはどうでしょうか？ （案）自治会等での住民自治活動には世代間による価値観の相違が目立つことや交通面での不便さなどが要因となって、空き家の増加、ひいては非居住地区化が進むなど、地域の維持が難しくなっている。日常生活維持の取組みはもとより、地域の再編（統合・合併）や集団移住も視野に入れた対策が必要であり、地域参加の都市づくりの推進が求められる。	空き家の増加、非居住地区化は、人口問題研究所の将来推計をベースに分析したもので、ご指摘の要因があるとしてもここで記載する内容ではないと考えます。接続語の読み取りが難しい問題は、接続部分を次のように修正します。「難しくなることにより」⇒「難しくなることが今後予想されるが」	○

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
12	P8	1. (1) 13行目	転入者が転出者を上回る社会増を目指すためには、観光戦略よりも「企業誘致」を強力に推進するほうが、はるかに効果がある。 地方都市で「働く場」が確保できていれば、人口減防止、税収増、少子高齢化防止等、すべての面で効果が期待でき、地域が活性化する。 そのためには、プロジェクトチームを組織し専従で行うしくみをつくる。	ゆめが丘南東部上野南部丘陵地での新産業用地創出を企業用地整備課で推進しています。	
13	P8	前都市マスタープランの評価概要	(原文) 課題8については、・・・大規模災害時における伊賀市の・・・ (修正) 課題8については、・・・大規模災害時における伊賀市の・・・	ご指摘のとおり修正します。	○
14	P9	上から2行目から	文中では「住民自治の仕組みは進んでいます。」と捉えられているが、現状では各まちづくり計画の更新がされていない住民自治協議会も多く進んでいるとは言えないはず。	地域まちづくり計画の更新については、2010年度以後策定又は改訂した地域が17地域あり、住民自治の仕組みは 前進していると評価しています。	
15	P12	⑫都市づくりのしくみ	上記同様に「地域まちづくり計画を全ての住民自治協議会が策定」と書かれているが、更新されていない地域も多く検証概要としては不十分。	14番の回答欄を参照してください。	
16	P40	上位・関連計画からの課題のまとめの表	3段目③「伊賀らしさ」の追求と、5段目②地域資源を活用した新しい内発的発展の実現の主要課題の文章を「ですます」調から「である」調に。	ご指摘のとおり修正します。	○
17	P3, 45など	伊賀市の将来都市像	(意見) この都市マスタープランが、住民の生活や暮らしといった生活基盤の充実をめざした計画としてイメージを膨らませるために、「市民」という表現ではなく、「住民」ですべてを統一してはどうか？ (原文) 市民の安全安心な暮らしと市民力による内発的発展をめざす『伊賀流多核連携型都市』 (修正) 住民の安全安心な暮らしと住民力による内発的発展をめざす『伊賀流多核連携型都市』	伊賀市全体に関する表現は「市民」で修正しませんが、地域をさす表現は、伊賀市の自治基本条例が住民自治協議会としている点も踏まえ、「住民」に統一します。なお、18番の回答欄に記した理由により「市民力」を「地域力」に修正します。	○
18	P43, 45など	課題6 地域参加の都市づくりの推進	(意見) 課題のタイトル「地域参加の都市づくりの推進」においては、「地域参加」という表現に変えて、住民・団体・地域・事業者が補完しあって作り出すものを「地域力」とし(ちなみにP48下から2行目に「地域力」という単語を使っています)、 「地域参加の都市づくりの推進」を「 <u>地域力を活かした都市づくりの推進</u> 」としてはいかがでしょうか？	ご指摘のとおり、「地域力を活かした都市づくり」の方が説明文との関係がしっくりするため、修正します。 また、文中に「市民力」と「地域力」という表現が別々に使用されていますが、市民個人の力で都市づくりを進めることではなく、住民も含めた地域の力を磨くことで人口減少の社会でも地域が輝くまちづくりを進めるというのが、本都市マスタープランを貫く思想であるため、「市民力」という曖昧な表現は削除し、「地域力」に統一します。	○
19	P43	課題6 地域参加の都市づくりの推進	(意見) 説明文の趣旨はよくわかりますので、「地域」の説明と「自治基本条例」の説明を加えていただきたいと思えます。また、「市民」は抽象的。そこに住む人々の力が求められていることを伝えていくためにも「市民」ではなく「住民」に変更してください。 (案)・・・持つ力をあわせ、市全体及び各拠点や各地域ごとと連携・協働してまちづくりを進めることが重要です。 伊賀市では「伊賀市自治基本条例」が施行され、住民自らが地域課題の解決に向けて取り組む体制が整えられてきており、『補完性の原則』のもと、住民・地域等とのさらなる協働・連携の強化が求められます。	ここでは、市全体と地域ごとを扱い、ご意見の内容は含まれていると考えます。なお、「『補完性の原則』のもと、住民」の変更・追加については趣旨を理解して修正します。	○
20	P45, 49, 53	地域包括拠点 JR関西本線新堂駅周辺	JR草津線、関西本線の柘植駅周辺を追加して欲しい。柘植駅は、他府県からの玄関口です。 JR草津線は、電化に伴い甲賀、京都、大阪への通勤が可能で利便性が向上した。今後、複線化になればこれまで倍以上の時間短縮が見込まれる。	5番の回答欄を参照してください。	
21	P45	伊賀市の将来都市像(目標2:都市の拠点機能強化)・地域拠点(島ヶ原、阿山、大山田)	「多核連携型の都市構成」を目指す都市拠点の配置として、地域に居住する人が、徒歩又は公共交通等により到達可能な「支所」を核に買い物や診療など日常サービスを受けられる都市機能の集積を図る地区として、伊賀支所、青山支所を含めた5つ周辺地区を地域拠点として配置されてきたが、今回の構想(案)では、新堂駅周辺と青山町駅周辺の2地区を地域包括拠点として位置付けている。 この地域包括拠点は、「支所のあり方」で総務部より説明を受けた3つの地域振興センターの内の2つの地域振興センターと重なるが、先の議会で於いて支所廃止撤回にかかる請願が採択され、また、北部地域振興センターの建設計画が未定等のことから、現時点では地域振興センター設置計画は消滅したと理解している。 よって、現計画どおり5つの地域拠点として残すべきであると思うが・・・。 あえて、新たに地域包括拠点として設置しなくても、現行の3つの拠点(広域的拠点、副次的拠点並びに地域拠点)で十分機能すると思われるので、変更する必要はない。	本都市マスタープランでは、支所廃止の市方針を受け、支所に頼らない地域拠点づくりをめざし計画されています。しかし、支所機能の継続が決定し前都市マスタープランとの状況変化がなくなったため、ご指摘のように地域包括拠点を廃止し、前都市マスタープランと同じように5つの地域拠点の構成に修正します。なお、支所に頼らない地域拠点づくりの考え方には変更ありません。また、福祉との連携については、以下の文章を追加して対応します。 また、地域福祉計画が掲げる地域共生社会の仕組みと連携して、地域福祉の役割も有します。	○

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
22	P46 P53 P66	1. 伊賀市の将来都市像 (1)都市拠点の形成 3-3都市づくりの戦略方針	〔拠点の設定について〕 柘植駅周辺地域は、「目標2、3を構成する都市構造の要素（2）居住地（居住ゾーン）の形成1）拠点型居住地」と位置付けられている。 柘植駅周辺地域は、上記位置づけでは不十分で、3-3都市づくりの戦略方針（P66）の趣旨に基づき「地域包括拠点」として設定すること。なお素案で検討されている「地域包括拠点」の要件に合わないとなれば、新たに、例えば「交通要衝地域包括拠点」として設定すること。 理由 全体構想素案で伊賀市の将来都市像として、「都市づくりの目標の実現をめざす『伊賀流多核連携型都市』が、市内および隣接市や地域との多様な連携と交流により一人ひとりの豊かさを求めた都市づくりを目指します」（P46）とあり、その都市イメージ図では近隣5地域が記載されている。 その内の2地域は甲賀市と亀山市で、広報いがの情報交流ひろば欄で「となりまち いが・こうか・かめやま」で連載されているように「連携と交流」が進められている。 ①JR関西線および草津線の要としての柘植駅。その隣接市は、甲賀市と亀山市である。 ②従前の計画の中でも、柘植駅は「交通結節拠点」としての強化が求められていた。 ③道路の広域連携軸でも両市との分岐点となっている。 ④交通要衝の柘植駅周辺地域を「都市拠点の形成」（P53）の中の「交通要衝地域包括拠点」（例）として設定することによって、柘植駅のバリアフリー化やバス路線の充実、駐車場の整備等による利用促進は「魅力的居住地づくり」と一体のものである。	5番の回答欄を参照してください。	
23	P47	全体構想	4つの支えのグラフ、わかりにくいです。	第4次伊賀市地域福祉計画が目標とする「地域共生社会のイメージ」です。	
24	P48	都市づくりの目標	16～17行目の文章ですが、「伊賀流市民自治」という言い方よりも、「伊賀流自治」が一般的に通用している表現だと思いますので、次のように修正してください。 また、「市民」ではなく「住民」に修正してください。 （原文） 課題6への対応として「目標7：市民・地域等との協働・連携の強化」を掲げ、伊賀流市民自治の具現化を進めます。 （修正） 課題6への対応として「目標7：住民・地域等との協働・連携の強化」を掲げ、伊賀流自治の具現化を進めます。	ご指摘のとおり修正します。	○
25	P48	都市づくりの目標	目標7のタイトルや文章の修正してください。（理由はこれまでの上記の内容を参照） （原文）【目標7】市民・地域等との協働・連携の強化 市民力による内発的発展を目指すためには、市民・地域等と行政がそれぞれの持つ力を合わせ、市全体及び地域ごとに協働・連携してまちづくりを進めることが重要です。 まちづくりに市民力や地域力を活かすため、更なる協働・連携の強化を福祉施策等と連携して進めます。 （修正）【目標7】住民・地域等との協働・連携の強化 住民力による内発的発展を目指すためには、『補完性の原則』のもと、住民・地域等と行政がそれぞれの持つ力を合わせ、市全体及び各拠点や各地域ごとに協働・連携してまちづくりを進めることが重要です。 まちづくりに住民力や地域力を活かすため、更なる協働・連携の強化を福祉施策等と連携して進めます。	17, 18, 19番の回答を踏まえて、以下のとおり修正します。 【目標7】住民・地域等との協働・連携の強化 地域力による内発的発展を目指すためには、住民・地域等と行政がそれぞれの持つ力を合わせ、市全体及び地域ごとに協働・連携してまちづくりを進めることが重要です。 このため、まちづくりに地域力を生かすため、更なる協働・連携の強化を、福祉施策等と連携して進めます。	○
26	P49	将来の都市構造の設定	文章をわかりやすくするために、修正してください。 2行目 ……、今回の『伊賀流多核連携型都市』による都市構造は、… 4行目 ……を加えた強靱な構造としています。 6行目 造を支える要素なので構造図には表現しません。	ご指摘のとおり修正します。	○
27	P49	目標4〈ネットワークの形成〉について	広域連携軸として、JR関西本線、草津線、近鉄大阪線も挙げられているが、それらのアクセスポイントになるのがJR伊賀上野駅及び柘植駅、近鉄伊賀神戸駅である。このことを踏まえ、「公共交通拠点」の項目を追加し駅名を明記されたい。	ネットワークの形成を示しており、拠点は、目標2、3の記載となります。拠点は、駅単独ではなく周辺地域と一体的に位置付けており、JR伊賀上野駅及び柘植駅、近鉄伊賀神戸駅の周辺は公共交通活用拠点と位置付けています。	

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
28	P50 P52 P54 P56 P58 P59 P62 P66 P98 P102	凡例について	ゾーン、拠点、連携軸等の凡例が統一されておらず、煩雑であり、それぞれの括りで、解り易くする必要があります。 例 山並み・里山ゾーン 田園ゾーン 居住ゾーン (以上P52、54、58、98) 山並み・里山ゾーン 田園ゾーン 居住ゾーン 拠点型居住地 (以上P50、56、66) 山並み・里山ゾーン 田園景観ゾーン 居住空間ゾーン (以上P62) その他(略)	p62の表現をp52、54、58、98の表現に修正します。	○
29	P50	将来都市計画図について	上記により、「公共交通拠点」の項目を追加し、地図にJR伊賀上野駅及び柘植駅、近鉄伊賀神戸駅の位置を示されたい。	5番の回答欄を参照してください。	
30	P50~51	3-2伊賀の歴史文化	草津線に繋がっている柘植駅は関西との人流拠点であることを認識してほしい。乗換駅としての機能に加えて、柘植という名称は日本書紀にすでに出てくるだけあって魅力的な所ですから、駅を降り立って散策するだけの価値があります。柘植を前面に出さないのはもったいないです。せつかくある柘植駅に光を当ててください。	5番の回答欄を参照してください。	
31	P51	自然環境の継承	1) 緑のリンクとしての大盆地の風景(都市の・・・) まず、「大盆地」というのはあまり聞きなれない単語だと思います。「小盆地」に対する言葉として使っているのだとは思いますが、良いのでしょうか。次に「1) 緑のリンクとしての・・・」の意味が捉えにくいです。環状になっているということなら「リング」あるいは「輪」「環」かと思います。「繋がっている、連なっている」という意味のリンクならカタカナ語を使わずに「数珠状」ではないでしょうか?修正案として「(上野盆地の)周囲を囲む山々の風景(都市の背景としての山並みゾーン)」を提案します。 同じく、説明文の2行目からの「木津川等の源流域として・・・」にある「豊かな水と緑を与えてくれる貴重かつ・・・」の文章はそのかけがえのなさを表現するために、修正案として「豊かな水や緑を生み出す貴重かつ・・・」を提案します。	「緑のリングとしての大盆地の風景」は、伊賀市景観計画(p116参照)の表現に統一したものです。なお、「リンク」は「リング」の誤記であるため修正します。また、「あたえてくれる」を「生み出す」への変更については、「生み出す」の方が適切と考え修正します。	○
32	P51	自然環境の継承	2) ヒューマンスケールの心地よい小盆地の風景(里山ゾーン・・・) 横文字(カタカナ)することと感覚的な表現を使うことで、わかったようなわからないような表現になっているのではないのでしょうか?変更案として、「毎日の暮らしに調和する風景(田園ゾーン、里山ゾーン)」を提案します。	「ヒューマンスケールの心地よい小盆地の風景」は、伊賀市景観計画(p116参照)の表現に統一したものです。	
33	P51	自然環境の継承	なつかしさを感じられる里山ゾーン 「なつかしさを・・・」という表現は、主観的で感情的であると思います。 直前の「開放的で広がりのある田園ゾーン」と対比させ、(修正案)「無数の小さな集落が点在する里山ゾーン」としてはどうでしょうか。また、説明文の「伊賀市は、上野、阿山・伊賀、島ヶ原、大山田などの・・・」のように地域名を入れるよりも、例えば、「伊賀市を特徴づけている上野盆地の中には、各地に無数の谷あいや山あいがあり、その風景が周囲の山々と二重構造を形成しています。こうした風景と集落が作り出す景観を一体的に保全します。」としてはいかがでしょうか?	「なつかしさを感じられる里山」は、「開放的でひろがりがある田園」とともに、伊賀市景観計画(p116参照)の表現に統一したものです。また、記載文章は小盆地を形成していることを表現しており、適切と考えております。	
34	P51	自然環境の継承	特に森林の管理の仕方は、土砂崩れなどの災害の起こり方への影響もあると思います。林業の仕方(大規模に皆伐するのではなく少しずつ刈っていくことなど)、太陽光発電の大規模な設置への規制、風力発電の風車についてなど、災害への観点も入れて考える必要があると思います。	保全という表現はそのような意味も含めた言葉と考えます。	
35	P53	3) 地域拠点及び地域包括拠点①地域包括拠点について	JR関西本線新堂駅周辺、近鉄大阪線青山町駅周辺と記載されているが、②の地域拠点は島ヶ原、阿山、大山田支所周辺と明記されているので、①地域包括拠点も○○支所周辺と合わせるべきである。	21番の回答欄に記した理由により地域包括拠点を前都市マスタープランと同じ地域拠点に修正します。また、表現もご指摘のように支所周辺に修正します。	○

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
36	P53	3)地域拠点及び地域包括拠点	地域包括拠点については、新堂駅周辺には隣接しては地域包括支援センターが設置されていない。 阿山、伊賀の包括拠点が新堂駅になることは何も決定していないのではないかと。地域包括拠点の考え方は、支所を再編しようとしていた際の候補地を記載したのであれば、現状の再編の考え方は変化してきているので、包括拠点の考え方は修正か削除を考えるべきである。 将来の地域包括拠点案として記載するには議論が足りない。	21番の回答欄を参照してください。	○
37	P53	3)地域拠点及び地域包括拠点	他の箇所と整合性を合わせるために、「3）地域包括拠点及び地域拠点」に順番を変える。	地域包括拠点を削除します。	
38	P55	1)拠点型居住地と2)地域型居住地について	拠点型居住地では「居住誘導」の内容が書かれているが地域型居住地では「拠点性を強化し」と書かれているので、将来的にはどの方向性に進んで行くのか分かりにくい。	既存集落地及びその周辺では、集落が拡散する方向ではなく、地域コミュニティ施設等の拠点性を強化し、まとまりある生活空間をつくるイメージです。	
39	P55	1) 拠点型居住地	（意見）柘植駅が滋賀県方面との関係における拠点であることを明確にしておく必要があります。下記の修正案のように追加修正をしてください。また、地図には、公共交通のつながりがわかるように名張市の表記に合わせて、甲賀市や亀山市、南山城村の一部については、うっすらと描画してほしいと思います。 （原文）「・・・JR関西本線の伊賀上野駅周辺、佐那具駅周辺、柘植駅周辺及び近鉄大阪線の伊賀神戸駅・・・」 （修正）「・・・JR関西本線の伊賀上野駅周辺、佐那具駅周辺、 <u>関西本線と草津線の結節駅である柘植駅周辺及び近鉄大阪線の伊賀神戸駅・・・</u> 」	ご指摘のとおり「関西本線と草津線の結節駅である柘植駅周辺」に修正します。図の表現範囲は、上位計画である三重県都市計画マスタープランの伊賀圏域を対象としたもので、圏域外の表現は考えていません。なお、図にJR草津線の記載が抜けているため全ての図に追記します。	○
40	P55	(2) 居住地（居住ゾーン）の形成 1) 拠点型居住地について	公共交通の拠点で、公共交通を活用した居住誘導を進める区域としてJR関西本線の・・・と記載があるが、「公共交通拠点」を項目に追加するとすれば、公共交通を活用した居住誘導を進める区域として、拠点であるJR関西本線の・・・とした方が良い。	4 駅（伊賀上野駅、佐那具駅、柘植駅、伊賀神戸駅）周辺については、公共交通を活用した居住誘導を進める区域として、公共交通活用拠点と位置付けていることを明確に記載します。（なお、これらの区域は、公共交通活用拠点として、前都市マスタープランでも位置付けています。）	○
41	P57	伊賀市の将来都市像 （目標4：公共交通）	都市マスでは、周辺の市町村との連携により、伊賀市の将来都市構造を設定するための実現方策として、道路計画・交通計画が重要であることから、P57の広域連携軸としての公共交通の記述が必要であります。 伊賀市の背骨は伊賀鉄道であり、これと接続するJR関西本線、近鉄大阪線の鉄道と名阪国道が骨格となることから、次の文章を追記すべきと思います。 （追記文） 広域連携軸としての公共交通は、JR関西本線、JR草津線、近鉄大阪線の鉄道と名阪国道である。 亀山市、津市、甲賀市、名張市、大阪市、奈良市、南山城村等周辺の市町村との連携と協力体制により将来都市構造を設定する。 具体的な方策として、伊賀市内の鉄道の接続点の伊賀上野駅、伊賀神戸駅、柘植駅を公共交通拠点とする。中でも、柘植駅を拠点に亀山市、甲賀市との協力体制を図り、リニア新駅とのアクセスのためにJR関西本線・JR草津線による亀山市、甲賀市との連携が必要であり、伊賀上野駅、伊賀神戸駅、柘植駅の拠点化を図ることが重要であります。	ここでは、公共交通のネットワークの概要を整理したもので、広域連携軸等の記載文章は、ネットワーク軸一覧で十分と考えます。	
42	P57	(2) 公共交通 ネットワーク軸一覧表について	「公共交通拠点」を項目に追加し、JR伊賀上野駅及び柘植駅、近鉄伊賀神戸駅を明記する。	ここではネットワークの形成を示しています。	
43	P58, 59	道路ネットワーク図、公共交通ネットワーク図	（意見）道路・公共交通を表記している以上、新名神高速道路や土山・甲南・信楽の各IC、名阪国道の亀山方面や山添方面のいくらか、草津線（貴生川くらいまで）は市外であっても表記していただきたいです。また、壬生野インターから大山田へ、下柘植インター上友田へ、丸柱から信楽インターへ、甲南インターから玉滝へのそれぞれ道路表記が欠けていますので加えてほしいと思います。	ネットワークは圏域外との主な連携を示しており、ICのみの連携を示したものではありません。また、地域連携軸は、広域的拠点と地域拠点の連携を位置付けており、ご指摘の道路は、都市構造に位置づける道路ではないと考えます。	
44	P59	公共交通ネットワークの図中	図中の伊賀上野駅、伊賀神戸駅、柘植駅の3駅に○を記入。凡例に○公共交通拠点を追加。 P50、P54、P58にも記入。	公共交通ネットワーク図に伊賀市地域交通計画（2021（令和3）年3月策定）の地域公共交通ネットワークの将来イメージ図に記載の主要駅（上野市駅、伊賀上野駅、柘植駅、伊賀神戸駅）を明示します。	○
45	P59	公共交通ネットワーク図	「公共交通拠点」を項目に追加し、JR伊賀上野駅及び柘植駅、近鉄伊賀神戸駅の位置を標す。	44番の回答欄を参照してください。	○
46	P62	道の駅活用拠点	伊賀ドライブイン、名阪伊賀の道の駅を追加して欲しい。	道の駅の活用拠点は、現在「道の駅あやま周辺」で周辺の公共施設を一体利用とする計画が検討されていることを受けて、知的対流拠点候補と位置付けているもので、伊賀ドライブイン等を排除するものではありません。本計画では、具体的な動きが記載可能な拠点の表示に止めています。	

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
47	P65	防災	防災地図を見ると、川上ダム一つ造ったところで伊賀市に治水効果は極めて限定的である事が分かりました。むしろ線状降水帯が発生した場合、ダムの緊急放流・事前放流が必ずありますから、其の被害を想定する必要があるのでは、加筆願います。	現在公表されている洪水浸水想定区域を示してあり、見直しの際にはご意見を参考とさせていただきます。	
48	P66	戦略方針の位置と概要図	柘植駅周辺を追加して欲しい。	5番の回答欄を参照してください。	
49	P67	伊賀の魅力と課題	美味しいお米・お酒・和菓子・お豆腐・味噌醤油といった伝統の味は、お水が美味しいからです。地下水は企業にタダで使わせて、おいしかった水道水源は廃止してダムからの水道に代わると、お酒や和菓子の味は変わると考えられて、危機感持つ業者が結構います。伊賀の食べ物がおいしいのはお水が美味しいからです。その認識を持った文体にしてください。「偽りの宣伝」になりませんよう、気を付けましょう。	本文章は、当エリアの計画である第2期伊賀市中心市街地活性化基本計画から抜粋して記載しています。	
50	P67	(2) エリアの魅力と課題 芭蕉生誕の地	(意見)「芭蕉生誕の地」という表現は、この地で生まれたということを表すものであり、生誕地については有力な「柘植拝野説」がある中、「上野赤坂説」のみを表記するのは約束違反です。「芭蕉翁生家」に変更していただきたいと思えます。	ご指摘のとおり修正します。	○
51	P70	都市形成イメージ	(原文) 4. 以上の基本的な考え方のもとに、・・・ (修正) 4. 以上の基本的な考え方のもとに、・・・	ご指摘のとおり修正します。	○
52	P71	②まち壊しにならない居住誘導施策の検討	(原文) あるように約倍の約75～85mあるため、街区に幅に対して・・・ (修正) あるように約2倍の約75～85mあるため、街区の幅に対して・・・	ご指摘のとおり修正します。	○
53	P72	空き家対策	手入れをすればまだまだ住める空き家に、人が居住すると良いと思います。手入れの費用は行政が負担してリストを作って、手ごろな値段で希望者に提供する。古い家、特に木造家は魅力的です。マンション暮らしの都会人には憧れでしょう。あとは地域に学校・公園・子どもの遊べる施設・お店や郵便局・バスや鉄道があることが必須です。シェアハウス（学生・外国人労働者・自宅に居場所のない人・避難者）も良いです。子どもやお年寄りの「たまり場・小さな図書館・学習塾も良い。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
54	P80	エリアの魅力とエリアの課題について	エリアの魅力では、「地域共生社会を目指す拠点となっている」とあるが、エリアの課題では「拠点機能の維持が難しくなっている。」とあるので、既にエリア魅力にある拠点とはなっていないのではないかと。地域包括拠点及び地域拠点の現状の表で、縦軸の阿山支所周辺、横軸の小学校中学校の所でXが1つあるが何を示すものなのか？	「地域共生社会を目指す拠点となっている。」という文章を、「地域包括支援センターサテライトが立地又は周辺立地し、地域共生社会を目指す拠点として機能している。」に修正します。また、小学校中学校の所の×は、拠点型居住地に中学校がない意味で、理解できるように「小学校・中学校」に修正します。	○
55	P80	3.地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり	(2) エリアの魅力と課題 ■ エリアの魅力（強み）1～2行目 趣旨を明確にするために、文章の表現の修正を提案します。 (原文)・・・旧5町村の拠点として機能していた中心地で、現在も地域の日常生活の拠点として、公共交通の拠点で公共施設や生活利便施設等が集積している。 (修正)・・・旧5町村の中心地として機能していたエリアで、現在も日常生活や公共交通の地域拠点でもあり、公共施設や生活利便施設等が集積している。	ご指摘のとおり修正します。	○
56	P80	3.地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり	(2) エリアの魅力と課題 ■ エリアの課題 4行目 不要な表現があると思います。文章の表現の修正を提案します。 (原文) 行政の財政的な状況で、地域拠点維持が難しくなっており、新たな視点での地域で支える地域拠点づくりが求められている。 (修正) 行政の財政的な状況で、地域拠点としての維持が徐々に難しくなっており、新たな視点での地域で支える地域拠点づくりが求められている。	「行政の財政的な状況で」は「地域を支える人口の減少等で」に変更し、かつ、ご指摘のとおり修正します。	○
57	P80	■地域包括拠点及び地域拠点の現状	・一覧表の業務施設に、住民票などがとれる施設である「コンビニ」を追加してください。 →新堂駅周辺、阿山支所周辺、青山町駅周辺 ・一覧表の小学校中学校に保育園と高校を追加してください。 →保育園はすべてに○、高校は新堂駅に○ ・一覧表の継承すべき歴史・文化に追加してください。 →新堂駅周辺に「大和街道」を追加	ご指摘のとおり業務施設にコンビニを追記します。保育園と高校については、高校は必ずしも地域拠点に必要なと考えられないことより、保育園のみ追記します。なお、幼稚園は全ての拠点に立地しておらず、また、送り迎えが行われていることより現状施設に加えていません。継承すべき歴史文化は、宿を表現しており、街道名は宿の説明です。誤解を招くため括弧表示に修正します。	○
58	P80	地域包括拠点 JR関西本線新堂駅周辺	JR草津本線・関西本線柘植駅周辺を追加して欲しい。継承すべき歴史・文化欄には城跡、芭蕉生誕地、横溝利一誕生地がある。	5,57番の回答欄を参照してください。	

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
59	P80～	地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり	1.(3)市民の意見記載内容の誤り (詳細は、P28参照)はP29の誤り 2.(5)エリアに求められる実現目標と戦略方針 旧郡部に関わる記載が少ない中で、ポイントはこの部分となる。記載内容に異論はないが、より具体的な内容とするため、たたき台案(令和3年3月)に記載されていた「攻め(価値創造)の例」を再度地区ごとに精査したうえで記載すべきと考える。 島ヶ原地区は駅前、やぶっちゃん温泉の開発及び大和街道、島ヶ原宿を中心とした歴史的風致、景観の保全が攻めの取り組み例となる。 3.(5,2)地域の守りの拠点づくりでは6項目の記載内容は全て重要と考えるが、P29のアンケートの重要事項(地域機能の拠点機能、医療・保健機能の維持・充実等に関する項目も重要であり、記載すべきと考える。	1. p 29に修正します。 2. ご指摘の内容は、取組み例として資料編に記載します。 3. 都市計画における取り組むべき方針として、福祉との連携による地域共生社会と連携した地域の守り(生活維持・向上)の拠点づくりを位置付けていますので、アンケートの重要事項の要素は含まれていると考えます。	○
60	P81	(5)エリアに求められる実現目標と戦略方針の3行目	文中では「これからは地域包括ケアシステムをより(進化・深化)させた地域共生社会の実現を目指しています。とあるが文章に違和感あり。(目指します?)	ご指摘のとおり「目指します。」に修正します。	○
61	P82	1)地域の内発的発展を支える攻め(価値創造)の拠点づくり11行目	「この拠点は行政が中心ではなく、地域主導で進めます。」とあるが、どの部分を地域主導で進めて、どの部分が行政主導、支援なのか分かりにくい。また地域主導を進めるには人口減少が予想される中にあるは人的、物的、金銭的、精神的に不安しか無い。	起業支援中間組織をさし、概念図に示すように行政の役割は出資・補助となります。組織をつくるまでは行政の側面的なサポートが必要と考えます。	
62	P82	1)地域の内発的発展を支える・・・	(原文)・・・伊賀市ではこれに「ふくし」の・・・ (修正)・・・伊賀市ではこれに福祉の・・・ ※「」やひらがなにする意味が不明のため	本文章は、第3次伊賀市地域福祉計画から抜粋して記載しています。	
63	P82	1)地域の内発的発展を支える・・・	(原文)この、「7次産業」では、障がいのある人や高齢者 (修正)この、「7次産業」では、障がいのある人や高齢者	ご指摘のとおり修正します。	○
64	P83	2.地域共生社会の拠点づくりについて	現状、地域福祉コーディネーターの仕事量は多く人員の増加をしないと活動が難しい。また「小規模多機能居宅介護施設の立地を誘導し、地域共生社会を実現するためのライフサポートセンターづくりについても配慮します」とあるが、小規模多機能居宅介護施設の立地の誘導については、課題も多くメリットばかりではない。この場合小規模多機能自治を検討して目指す方が良いと考える。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
65	P83	4.地域内住み替えの受け皿づくりについて	高齢者が安心して生活ができる住宅や施設があることは良いことだが、国民年金だけでは入居が難しく、現状でも支援する介護者は不足の状態、場合によっては空き家も増加する。在宅介護が国より提唱されてきた中では、施設入居と在宅支援(介護)のバランスが重要である。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
66	P86	■魅力的な居住環境づくり○公共交通等活用拠点	(意見)維持だけではなく、促進をプランに入れてください。 (原文)・・・利便性を活用した居住維持が求められる。 (修正)・・・利便性を活用した居住維持と居住促進(定住)が求められる。	居住維持することは、人口減少社会では居住促進も含まれていると考えます。	
67	P87	(3)対象に求められる実現目標と戦略方針	(意見)戦略方針の方針1に「多様なライフスタイルに対応した魅力的な居住地の確保」とあるが、説明文にはその方針につながる文章がありません。 説明文3行目と4行目の間に次の文を挿入していただきたいと思います。 (追加挿入)「最近では、世代間における生活に対する価値観の違いや居住年数による日頃の地域コミュニティに対する考え方も多様です。自治会のあり方や地域で暮らすために行われている共益活動などについても、明朗性や公平性の点で移住してきた方との間でトラブルの原因となることもあり、地域の魅力を下げている場合もあります。」	「多様なライフスタイルに対応した魅力的な居住地の確保」は、「市内外の人から住みたいと思われる、伊賀市の強みを生かした魅力的な居住地づくり」とつながっています。具体的な「伊賀市の強みを生かした魅力的な居住地づくり」は、方針の進め方で展開しています。	
68	P88	③地域包括拠点及び地域拠点	(意見)いまの段階では、行政との補完性の下での拠点づくりでなければいけないと思えます。 (原文)・・・の砦として、地域主導で拠点づくりを進める地区で・・・ (修正)・・・の砦として、行政との「補完性の原則」に立って、地域主導で拠点づくりを進める地区で・・・	ご指摘のとおり修正します。	○
69	P88	④公共交通活用拠点	(意見)ていねいな表記にするとともに、柘植駅は草津線との結節駅である特徴をしっかりと表現してください。 (原文)JR関西本線伊賀上野駅、佐那具駅、柘植駅周辺及び近鉄大阪線と伊賀鉄道の結節駅である伊賀神戸駅周辺地域では、・・・ (修正)JR関西本線の伊賀上野駅周辺、佐那具駅周辺、関西本線と草津線の結節駅である柘植駅の周辺及び近鉄大阪線と伊賀鉄道の結節駅である伊賀神戸駅周辺地域では、・・・	ご指摘のとおり修正します。	○

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
70	P88	公共交通活用拠点	JR草津線を追加して欲しい。	69番の回答欄を参照してください。	○
71	P89	道の駅阿山を中心とした地域産業	伊賀ドライブイン、名阪伊賀の道の駅を追加して欲しい。	46番の回答欄を参照してください。	
72	P92	方針3	（意見）言いたいことは理解できますが、車（自家用車、マイカー）は、特に伊賀市の周辺部（郡部）に生活する者にとってはなくてはならないものです。この表現はしっくりきません。「拠点」に生活する人が、徒歩や公共交通で済むのに、わざわざ自家用車を使うことを取り上げて、「過度に依存」というのなら、そのように伝わるように訂正してほしいです。枠囲みを読むと、コンパクトシティ化を進めようとしていることが伝わってきますが、それならば、次のように修正していただきたいと思います。 （原文）車に過度に依存したまちから「公共交通の活用」に配慮した居住空間づくり （修正）移動手段に自家用車がなくても「公共交通の活用で十分に生活できる市街地形成」	この方針は、「公共交通の活用」に配慮した居住空間づくりをめざしたもので、公共交通の結節点での市街地形成をめざした目標です。	
73	P92	方針1	（原文）人口減少しても便利性を維持するため （修正）人口が減少しても便利性を維持するため	ご指摘のとおり修正します。	○
74	P93	方針5	（意見）枠囲みにある「今後も伊賀市の発展を支える礎となる農村環境」とはどのようなことをイメージして書かれているのかわかりにくいです。説明を聞かなければ真意がわかりかねますので、さしさわりのない文章にしてはいかかと思えます。また、「郊外部」は「中心部」への対語だとは思いますが、一般的な用語である「郊外」でわかります。 （原文）伊賀市を支える礎となる農村環境を存続させるため「郊外部における暮らしの維持・継承」 今後も伊賀市の発展を支える礎となる農村環境を存続させていく必要があることから、農村集落における開発・・・ （修正）伊賀市を支える礎となる農山村環境を存続していくため「郊外における暮らしの維持・継承」 将来にわたって伊賀市の発展を支える礎となる農山村環境を存続していく必要があることから、農山村集落における開発・・・	農村環境とは、目標1を構成する都市構造の要素で「里山ゾーン、開放的で広がりのある田園ゾーン」をさしています。このため、山村は含まれていません。	
75	P93	方針7	（意見）一般的には「伊賀盆地」よりも「上野盆地」の方が学術表現としては正しいのではないのでしょうか。また、伊賀市は木津川淀川の源流域であることを明確に文章にしたいと思っています。 （原文）伊賀盆地の・・・ 水田等の農地や里山等の山林は、保水機能や防災機能などの多面的機能を有しており、・・・調和に努める。また、市内を流れる大小の河川は、伊賀市の自然環境軸となるものであり、・・・ （修正）上野盆地の・・・ 水循環の起点ともいえる淀川源流を有する上野盆地の東半分を占める山々は水資源の宝庫であるとともに、その麓に続く水田等の農地や里山等の山林は、保水機能や防災機能などの多面的機能を有していることから、・・・調和に努める。また、良質で豊かな水量を有する市内を流れる大小の河川は、伊賀市の自然環境軸となるものであり、・・・	「伊賀盆地」という総称は、前都市マスタープランでも使われている表現です。本都市マスタープランでは「伊賀盆地」で統一します。また、記載文章は簡潔に「自然環境、営農・営林環境との調和」を表した表現と考えます。	
76	P98	（3）市街地整備の方針 市街地整備の方針図の図中	P57の追記の理由より、市街地整備の方針図の図中に追記すべきと思います。 （次の文を追加記入） —公共交通拠点— ・将来鉄道交通の拠点 ・大阪、京都、滋賀、名古屋との連携拠点 ・伊賀市の玄関口	5番の回答欄を参照してください。	
77	P98	市街地整備の方針図の図中の名称変更	凡例に○公共交通活用拠点→公共交通拠点に変更	5番の回答欄を参照してください。	
78	P102	オ 安全性の確保 1行目	（意見）通学路については小学校だけではなく中学校も含めておくべきだと思います。 （原文）都市幹線道路及び小学校の通学路については、・・・ （修正）都市幹線道路及び小学校や中学校の通学路については、・・・	ご指摘のとおり修正します。	○

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
79	P103	ア 鉄道	<p>（意見）JRへの要望だけではなく、地域（自治協）とのつながりである取組みや伊賀市行政としての対応も表現していただきたいと思ひます。</p> <p>（原文）JR関西本線の活性化及び観光誘客に向け、加茂～亀山間の電化促進、接続改善に向けた要望活動を継続し、JR草津線についても活性化に向け接続改善等の要望活動を継続します。</p> <p>（修正）JR柘植駅やJR島ヶ原駅は、伊賀市はもとより三重県という範疇で考えても、滋賀県や京都府及び奈良県との間の「玄関口」の役目を果たしています。そのため、JR関西本線の活性化及び観光誘客に向け、加茂～亀山間の電化促進、接続改善をはじめ、トイレや待合など構内サービスの向上に向けた要望活動を継続します。またJR草津線についても関西線と同様、活性化に向け、甲賀市とも連携して接続改善等の要望活動を継続します。</p> <p>また、関係する地域の自治協や住民組織と協力して利用促進を図るとともに、駅を核としたまちづくりを進めます。</p>	公共交通機関については、伊賀市地域交通計画（2021（令和3）年3月策定）から抜粋して記載しています。	
80	P103	ア 鉄道	<p>「・・・JR草津線について活性化に向け接続改善等の要望活動を継続します。」と記載されているが、JR柘植駅は、関西本線と草津線が接続していることから、伊賀市の東の玄関口として重要な役割を担うものと考えられる。については、「・・・接続改善及び駅構内外の整備等の要望活動を継続します。」と修正されたい。</p>	79番の回答欄を参照してください。	
81	P103	ア 鉄道	<p>（意見）4点目の駐車場にかかわる記述では、伊賀鉄道についてが具体名を出してあるのと同様に、JR関西本線にかかわる駅の駐車場についても明記していただきたいと思ひます。</p> <p>（原文）伊賀鉄道の市部駅・・・周知・利用促進を図ります。また、既存の駐車場や駐輪場の・・・</p> <p>（修正）伊賀鉄道の市部駅・・・周知・利用促進を図ります。また、JR関西本線の柘植駅や新堂駅、佐那具駅、伊賀上野駅、島ヶ原駅の市営駐車場や駐輪場の利用促進はもとより、新たな設備に向けた・・・</p>	79番の回答欄を参照してください。	
82	P103	ア 鉄道	<p>（意見）今後、2030年までを見越した都市マスタープランであるならば、リニアカーのことや停車駅のことについて、市民への啓発活動や要望活動を他の関係する市と協働で、あるいは三重県を巻きこむ形で行っていく必要があると思ひます。</p> <p>特にその玄関にあたるJR柘植駅は、草津線・関西線の結節駅であることを強みにして、都市マスタープランの一角を占めるようにした方が良くと思ひます。</p>	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
83	P103	ア 鉄道 JR草津本線について	JR草津本線を伊賀上野駅まで延伸の要求をいたします。京都までの短縮、大阪までの利便性向上で伊賀市発展に結びつきます。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
84	P104	ウ その他の移動手段の1行目と9行目	現在、公立小中学校は30校ではなく29校 「公共交通機関を利用して」の文章の前に「単独で」の文字を入れること。	ご指摘のとおり修正します。	○
85	P105	ふるさとの原風景を形づくる緑地の保全	<p>（意見）文章表現の修正を提案します。</p> <p>（原文）伊賀盆地の形態を形づくる山並みや里山および開放的で広がりがある田園景観を形成する農地を次世代に引き継いでいくため、景観行政や農林行政とも連携しながら・・・</p> <p>（修正）上野盆地の形態を形づくるの周囲にある山並みや各地の里山、および開放的で広がりがある田園などがつくる景観を形成する農地を次世代に引き継いでいくため、景観行政や農林行政、環境行政等とも連携しながら・・・</p>	75番の回答欄を参照して下さい。 「環境行政等」は追記します。	○
86	P105	3. 都市施設整備の方針 (2) 公園・緑地の方針 1) 基本方針	<p>「市民生活に潤いをもたらす身近な公園整備」都市公園として位置づけされていない公園（市有地で住宅団地内及び道路公園含む）が、山田管内でも数多く点在している。</p> <p>市からの委託を受けて維持管理（草刈り等の整備）を実施しているものの、委託費も年々削減されつつあり、維持管理の存続も危ぶまれている状況である。</p> <p>「市民生活に潤いをもたらす身近な公園」として市街地外の公園にも目を向けていただきたい。</p>	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
87	P107	エ その他の公園・緑地	<p>（意見）地域の拠点公園の説明が、「旧上野市以外の地域では・・・」とたいへん省略して書かれているように思ひます。旧上野市にある公園については例示も説明も多々あるのに、不思議な印象を受けるのですが、なぜでしょうか？「資料編」には詳しく書かれているのであれば、そのように注釈をつけていただきたいと思ひます。</p>	余野公園を追記します。	○

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
88	P111	上下水道の方針 1) 基本方針①の3～7行	(意見) 文章が長々とわかりにくいので、以下のように修正案を示します。 (案) この基本計画は、ゆめが丘浄水場とそこから整備を終えている耐震性を有する送水管路を最大限活用するもので、将来に亘って・・・持続を目指しています。 ※ゆめが丘浄水場・川上ダムを水源とし三重県企業庁の伊賀水道用水供給事業（伊賀広域水道）において建設され、2010(平成22)年4月に三重県から伊賀市へ譲渡を受けた施設です。	以下のとおり修正します。（下線部は左記に対する修正箇所） この基本計画は、ゆめが丘浄水場と、既に整備済みの耐震性を有する送水管路を最大限活用するもので、将来に亘って安全でおいしい水の供給、強靱な水道施設の構築及び健全な経営の持続を目指します。 ※ゆめが丘浄水場・川上ダムを水源とし、三重県企業庁の伊賀水道用水供給事業（伊賀広域水道）において建設され、2010（平成22）年4月に三重県から伊賀市へ譲渡を受けた施設です。	○
89	P111	上・下水道の方針 美味しい水とは	将来にわたっておいしい水の供給を目指すという根拠はどういうことですか？ 美味しい水というのは主観だと、水道局員にきっぱり言われたことがあります。ですが同じ伊賀市内とは言え、ゆめヶ丘浄水場から配水される地域に行くときは地元の水道水をもって私は出かけます。地元の水が美味しいからです。おいしいものは美味しいし不味いものはマズイ。今はまだマシで、川上ダムが供用開始されたらもっともっと不味くなることは間違いありません。質も悪化します。ゆめが丘浄水施設はレベルの低い高度処理施設だからです。大阪の水道水の方が美味しいくらいの水を伊賀市民は今から飲んでいるので、伊賀の水道は並みの味です。 ○おいしい水は消した方が正直で良いです。	「水道水のおいしさ」については主観的なものであり客観的に論じる事はできませんが、「おいしい水の要件」（おいしい水研究会まとめ：1985厚生省）としていくつかの項目（蒸発残留物、硬度、有機物量など）が挙げられており、これらの項目について伊賀市内の各浄水場の水質を比較検討したところ、全ての浄水場で「おいしい水の要件」を十分満たしており、伊賀市の水はおいしい水と言えます。 また、川上ダムの水利を利用するゆめが丘浄水場の原水水質は、川上ダムに設けられた利水用のバイパス管を利用し、下流12kmに位置する森井堰より取水するため実質的に河川表流水となります。	
90	P111	水道事業の健全運営	水道管の老朽化率17%の伊賀市は、これから更新費用が掛かります。川上ダム建設費用の11%（半分は補助金）は伊賀市にのしかかります。まだ土砂運搬をしていますから、湛水時期は遅れるでしょう。 隣接の桐ヶ丘団地との間に湧水やみずみちがあるので漏水や地崩れが起きたらそれも建設総額に入ります。トラック運搬で壊した道路の修繕費用もダム建設総額に入り、今も修繕工事の最中です。つまり川上ダム建設負担金がまだ決まっていなのに、なぜ健全運営と言いきれますか。嘘ついたことになったら「想定外でした」ですか。 水道施設更新のための内部留保資金を運営費に回して使っている水道会計。 本来は独立会計であるはずを、一般会計から3分の1も繰り出してもらって借金会計。 近隣で3分の1も繰りだしてもらっている市町は無いです。 ○謙虚な言葉に表現を変えた方が水道部のためになると考えます。	伊賀市水道事業基本計画では、川上ダムの運用開始に伴う安定水利権の取得により、ゆめが丘浄水場が最大限活用可能になることから、老朽化した施設の統廃合を行い、施設の運用効率を高めることで健全経営につなげる方向性を示しています。 現時点では川上ダム建設負担金は未確定であり、引き続き管路等施設の更新にも取り組んでいく必要がありますが、それ以上にこれまでの施設整備に係る企業債が償還完了により減少していくこと等により、大きな社会経済情勢の変化がない限り、基本計画の計画期間である2031(令和13)年度まで、健全な事業運営が可能であると見通しています。	
91	P111	基本方針 ゆめが丘浄水場について	三重県企業庁の伊賀水道用水供給事業（伊賀広域水道）において建設され、2010年4月に譲渡を受けたゆめが丘浄水場は、規模が今の人口でも、また将来の人口減を考えると大き過ぎます。健全な経営の持続は無理ではないでしょうか。伊賀市の将来の人口減を考えれば伊賀広域水道よりも分散型水道が望ましいです。基本方針の見直しを要求します。	人口減少により水需要の減少傾向が続くと見込まれることから、現状施設の単純更新は、施設利用率の低下など、将来的な事業効率の悪化を招くこととなります。また、大規模災害や水源の水質事故、渇水による水源確保などのリスクに対応できる施設整備や、水道事業に係る専門的な人材の確保などの課題を抱えている中、安定した水源及び施設による効率的な供給体制を整えていくことが健全な事業運営につながるものと考えており、引き続き伊賀市水道事業基本計画に基づく取り組みを進めていきます。	
92	P111	ア 水道事業の経営管管理	老朽化した施設の統廃合について、将来の人口減を考えると、老朽化した施設を改善して残したほうが健全運営につながります。	91番の回答欄を参照してください。	
93	P111	(3)上・下水道の方針 基本方針 ①安全でおいしい水道水の安定供給について	昨今、予想できない災害が起こりうる中、柘植地域には朝古水源からの浄水場による安心安全な水がある。それは本当に先人からの贈り物であると思います。伊賀市は、その恵を生かし残そうとせず、川上ダムが出来る事により、守るべき持続可能な宝の修繕を怠り、間違った伊賀市水道事業基本計画による川上ダムの水を飲ませる水利権の受水を、朝古の水を大切に飲み続けてきた柘植住民にも押し付けるのは非情だと思います。 そして何よりも一番問題なのは、たくさんの住民がこれからもずっと、2023年以降も朝古の水を飲めると思っていることです！これは今まで、柘植住民との話し合い、周知がされていなかった結果です。「ダムができるのは知っているが、この水は反対運動をしたので飲めるよ」と言う言葉をよく聞きます。この責任は誰が取るのでしょうか。住民不在の伊賀市水道事業基本計画を直ちに直すべきだと思います。もしくは、朝古水源は残し、朝古の水を柘植の宝として、市が責任を持って守り、住民に飲ませよう切望します。	川上ダムからの水利権によるゆめが丘浄水場等、伊賀広域水道当時の施設等を最大限に活用することで、健全経営、及び地震等の災害に強く年間を通じて安定的な取水が可能となり、安心・安全な給水を確保することができます。よって、水源状況が不安定、老朽化、耐震補強が不完全、小規模で効率性の低い、等の施設は廃止若しくは縮小更新を行います。また、浄水場は一カ所に集約するのではなく、地域に残す浄水場もあります。	
94	P111	上・下水道について	ぜひ地域に残る水源を残してほしい。災害の際や、ダムになにかあったとき、一箇所に集約されていていいのでしょうか？ 大企業が水を汲んで全国へ販売することについても、地下水の減少しないよう、汲む分のお金を払っていただき、水源を守るための経費にあてる等、地下水を守る条例も作ってほしい。	93番の回答欄を参照して下さい。	

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
95	P112	河川の方針 1) 基本方針②③④の文章	(意見) 文章がわかりにくいので、以下のように修正案を示します。 (案) ②自然環境に配慮した川づくり 在来の動植物にとっての良好な生育生息環境を維持し、新たな技術や知見を踏まえ、流域全体を視野に入れながら、自然環境に配慮した川づくりを進めます。 ③景観・親水性に配慮した川づくり 地域の暮らしや歴史・文化との調和のとれた川づくりをめざします。 ④多様な主体との協働による川づくり 河川整備を進めるうえでの各段階において、住民や地域の団体などの多様な主体と協働することで川づくりを進めます。	ご指摘のとおり修正します。	○
96	P112	河川の方針 ①水害の防止	国の諮問委員会“淀川水系流域委員会”1、2期における検討で川上ダムの建設意義が減少して、「4つの遊水地と河床掘削で治水効果は十分」と結論づけられたことはご存知ですか。河川管理者も合意したことです。ところが国交省は川上ダム建設を進めたいがゆえに淀川水の健全運系流域委員会の中を自分らの思い通りになる人で固めまして、遊水地の建設設計を秘密裏に変えたのでした。 そこまでやるとは！遊水地の元地権者さんや私たちは完成した遊水地を見て知ったのです。川上ダム建設を絶対に外せない国の力が働いたのでしょうか。ダム建設する同じ経費を河床掘削・堤防強化に当てたら、市民負担がどんなに軽いものであったか（県の事業になりますから）、そこを市民に説明しない伊賀市でした。市民に目を向けず国に目を向けていたのです。これは行政が伝えないならシガナイ市民グループで語り継ぐしかありません。マスタープラン策定の皆さん、そこを解ってくださいませんか？	ご意見として承ります。	
97	P112	②自然環境への配慮	他の生き物に比べたら丁寧な扱いはしていただいているようですが、川上ダムが建設された前深瀬川・川上川は川全体に、国指定の特別天然記念物オオサンショウウオ（日本固有種） https://y_attoke.com/2018/01/23/tokubetsu-tennennkinennbutsu/ （しかもオオサンショウウオは絶滅危惧種）が5・600も棲んでいる所でした。今は上流部へ移転をさせられて過密化しています。この扱いはなに？という感じをしています。特別天然記念物の動物は21件だけでそのうちの1つが伊賀の川を棲みかとしている事への重要性は市行政にあるのでしょうか。せめて棲息地保護をして、市民への周知に努めてから自然環境への配慮を謳いあげてほしいものです。担当人員削減も改善してください。中身のない配慮の姿勢だと思っています。 ○淀川水系前深瀬川に建設予定の多目的ダムは、建設中に。または建設を完成に。	ご意見として今後の参考とさせていただきます、「建設予定の」は「建設する」に修正します。	○
98	P113	川上ダム計画について	ダムが完成すると、水道水は水源が変わるのでしょうか？また、すでに変わっている地域もあるのでしょうか？住む側からすると、水は大きな資源です。水道水源の全てを地下水で賄う人口約74万人の熊本市もあります。水の豊富な伊賀市も、そのようになったらとても魅力的だと思います。ダム水ですと、塩素も増え、水温も夏は高く冬は低くなると聞きます。実際に、桐ヶ丘地域では水道の水がおいしくなくなったと聞いたこともあります。また、水道水の取水が変わることは市民が分かっているのでしょうか？	川上ダムの完成後は、伊賀地区、阿山地区への給水を開始しますので、水源が変わる地域もあります。この計画は、平成29年に策定した伊賀市水道事業基本計画に基づいて進めており、策定時に、各地域での説明会やホームページに掲載し周知を行っています。	
99	P114	(5)情報ネットワーク整備の方針について	どこかの部分に「電波環境の整備」と「セキュリティシステムの強化」を入れる。	伊賀市デジタルトランスフォーメーション（DX）基本方針に含まれていると考えます。	
100	P115	(6)その他の都市施設の方針について	ごみ処理について、「現在の生活活動がこのまま続くのであれば、やがて処理・処分の能力や容量に限界がきます」とあります。コロナの中大変な飲食店を応援したいと思いますが、テイクアウトになると毎回容器のゴミが出るため、環境への負担になることが小さなストレスです。「マイコンテナ」の取り組み店の応援をはいかがでしょうか。兵庫県洲本市では市で取り組みをしているそうです。 (https://www.city.sumoto.lg.jp/soshiki/14/11978.html)	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
101	P115	(6)その他の都市施設の方針について	ごみ処理について。コロナで自宅にいたことが多いと、掃除や整理してゴミを出すことが増えました。伊賀南部クリーンセンターへ粗大ゴミやプラスチック製品ゴミを車に積んで出しに行きました。もし家の中からゴミを捨てる場所がないとしたら…と考えれば、ごみ処理は、見えにくいけれど生活の中で大きな部分を担っていると感じました。買うときは一瞬なのに、捨てることは簡単ではなく、たとえゴミ袋に入れて出したり処理場に出しても、自然環境への影響は残り続けるのだと思います。買う側の自分への反省も含め、作る側（主に企業）の責任が見えなさすぎだと思います。見えにくいことですが、素材を含め、循環出来るものづくりや、労働環境や運送まで含め、ものづくりの時点から考えていくと、精神的にも心地よく、持続可能で、さらに魅力的な街になると考えます。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
102	P115	ゴミ問題	日本で指折りの産廃業者が伊賀で操業していて、ダイオキシン・放射性含有の灰や土が運び込まれています。伊賀市のごみの大半はそこで処理されていると聞きます。そうしたごみ処理の流れの事実を加筆してください。空気・川の水・地下水への懸念解消に向けた取り組みがあったらそれも加筆願います。	産廃廃棄物の施設については、県と協力して対応を図っています。	
103	P118	景観計画との連携方針	（意見）「伊賀市景観計画」には表現されていないかもしれませんが、景観をよりよくするために、「電線類地中化」についても触れていただきたいと思います。	電線類地中化に関しては、事業者や住民の理解を伴うので課題として認識しており、今後検討します。	
104	P118	策定委員会における削除文に対する意見（下水道関係）	審議会で指摘されたため削除したのだろうが、このマスタープランは上野処理区公共下水道前提で書かれているのだからそのまま押し通しても良かったのでは。新都市は住居区画が埋まっているから空き家に入居させていくというが他府県の下水道普及率は90%以上であり、果たしてどこまでの人口減少抑制ができるか不透明である。千戸は現在も住宅が建てられているが都市計画区域外。ほかに区域内の郊外住宅地も年に複数。拠点地域は早くも区画が埋まりつつある。農業振興農用地に手を付けるのかといったところ。用途地域は建て替えが主で宅地造成はなかなか進まない。用途地域の新居三田処理区と佐那具処理区が合併浄化槽ならこのまま建て替えのみで新規はないのではと危惧している。おりしも中京銀の伊賀地域撤退が報じられ、上野市駅前の金融機関はうえしんのみ。三十三も統合し、残りは郵便局と滋賀銀だけとなった。今となっては岡三があわれである。新都市は住居区画が埋まっているから空き家に入居させていくというが他府県の下水道普及率は90%以上であり、果たしてどこまでの人口減少抑制ができるか不透明である。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
105	P119	（3）歴史的風致の継承方針	「伊賀上野城周辺地区」は、平成9年度に都市景観大賞を受賞し、三重県で唯一、都市景観100選に選ばれ、歴史と伝統を尊重した街づくりを進め良好な景観が形成されていることから、次の文章を追記すべきであると思います。 （追記文） 日本の都市景観100選の「伊賀上野城周辺地区」は、緑豊かな自然と城下町としての風情が色濃く残り、歴史的遺産としての保全と活用に努めます。	平成9年度の都市景観100選に選ばれた都市景観は、平成18年策定の「伊賀市ふるさと風景づくり条例」及びこの条例により策定された「伊賀市景観計画」「伊賀街道・大和街道沿線及び寺町地区景観計画」に反映され、城下町景観の保全に取り組んでいます。	
106	P119	（3）歴史的風致の継承方針の図中	追記 上野城城下町区域 ・伊賀上野城周辺地区 ・上野天神祭 ・伊賀組紐 ・城下町の和菓子店 ・芭蕉頭彰と俳句文化	歴史的風致維持向上計画の重点地区を記載しているため、伊賀上野城周辺地区を含めていません。	
107	P120	防災	上野盆地には大川が3つ合流する地点です。遊水地一帯で1mほど陥没した歴史がある事をご存知でしょうか。液状化を想定した予告文言を加筆してください。国が進める地域治水では住民の命は守れないのは明らかです。住んで悪い場所に住むなら命が助かる対策を示す、そこまで示す責任が都市プランにはあるのではないのでしょうか。	液状化については、「三重県地震・津波被害の低減に向けた都市計画指針」に準じた防災対策の追加文章に含まれていると考えます。	
108	その他	用語の定義について	使用している用語が、本文で探さないと判らない。第1章の冒頭か末尾に、用語の定義の一覧表を記載する。	用語の定義を記載します。	
109	その他	意見募集の方法について	伊賀市Facebookなど、こちらのパブコメ募集について投稿がなかったと思いますので、もっと告知してほしかったです。今後ともよろしく願います。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
110	その他	全体的に	伊賀が変わろうとしている、変わらねばという意気込みを感じます。そのためには市民の声をこれでもかこれでもかと聞く姿勢がもっとあっていいと思います。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	

■伊賀市都市マスタープラン（全体構想素案）に対するご意見

番号	ページ	概要	ご意見	回答	反映
111	その他	居住地区における生活環境について	<p>1. 居住地区における生活環境について</p> <p>まず、住居が先祖代々の場所であれば、ほとんどが固定資産（田畑）の維持管理があるため、容易に住居地を変更できない。しかし、次の世代になると、特に大学卒業するとほとんどが、伊賀市外の企業に就職し、その土地で家庭を持ち、別居生活として核家族化が常態化している現象が著しい。そして、そのほとんどが定年退職するまで伊賀市へ帰ってこない。また、帰って来た時はすでに60代70代になる。したがって、高齢者が増加するだけで平均年齢が若くならないのが現状である。これは、中心市街地・周辺地域を問わず、近くで就労する条件が揃っていないからである。子どもが市内の学校に行っている間、いくら教育費支援をして「子供は伊賀市の宝」と言っても、大人になれば伊賀市を離れてしまい、費用対効果が出ていないのが現実である。観光施策より企業誘致施策を優先する方が、将来的にも安定した税収や人口増につながり費用対効果が大きくなる。人口が多いから地域振興が発達しているとする理論より、少なければ少ない地域での生活環境を向上する方策の方が良いと考える。</p> <p>生活環境の評価について</p> <p>質問1：すべての地域で「③公共交通の利便性が低い」について、満足度が低いのは、アンケート回答者は、全て自らの生活環境を基点として判断するから、いくら便数を増加しても、運行経路を変更しても回答結果は変わらない。住民が必要な時に自由に利用できるしくみがなければ満足しない。</p> <p>質問2・3：重要度については、どの地域も安全性が高くなっている。中でも日常生活に直接影響のある公害関係と自然災害による脅威を挙げている。各地で自然災害による被害が甚大化している昨今、国土強靱化対策には高額な費用が必要であるが、安心して生活できる環境の確保と維持は、誰しもが望むところであり、他地域からも羨望されるような地域になればおのずと転出者がなくなり、転入者が増加するという一石二鳥の効果が期待できるため、将来的投資を今実行するべきである。</p>	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	
112	その他	地域拠点について	<p>2. 地域拠点について</p> <p>質問4：各地区市民センターを地域コミュニティの拠点機能の維持・充実についての期待は低い結果となっている。それと対照的に支所機能の維持・充実を多く望んでいる。行政の支所業務は「取次」のみと解釈をしているが、地域によって独自の生活環境が違うのであるから、地域の近くに存在し、本庁機能と同じように、ある程度の「権限と予算」を保持しないと地域に合った支所機能の充実は果たせない。なおかつ、配置する職員の資質の向上が必然的に重要になる。中心市街地は本庁に近いが「中心市街地推進課」まで設置しており、行政が常に「公助」として位置づけされている。それに比べ、周辺地域には「自分たちのことは自分たちで」として独自性を強調して、行政の関与支援（特に経費）が少ない。これはまさしく「地域差別」を行政が推進していることになる。そうしたことが中心市街地の自主性を阻害しているのではないか。住民の意思や希望に関わらず、行政が予算を投入して、あたかも伊賀市全体の事業的な思考のもとに行政運営をしているように見える。中心市街地は「周辺地域」があって初めて存在意義がある。平成の大合併は、旧上野市に周辺郡部が吸収されたのではない。環境に関わらず「平等・公平」な地域振興をしなければならないと思う。市民税は平等に納入しているのだから、全市民に対し平等の行政運営でなければいけない。</p> <p>攻めの取り組みに対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大山田地域の事例としては「馬野川小水力発電所（令和2年8月竣工）」があり、売電料金の一部を地域貢献に寄与すると聞いている。 ・布引自治協では、区有林の間伐材を利用した「木製ベンチ」の制作・販売や、「ぶどう山椒」の栽培・販売等に取り組んでいる。 <p>前述にもあるように、市税を投資し支援した若者を伊賀市に取り戻すためには、働く場の準備が絶対優先課題として取り組むべきです。ITが進歩している現在、場所の提供だけでもすれば、応募者があるように思う。その場所は市の図書館とか旧南庁舎とか手を加えなくても可能と考える。とにかく、投資した効果を上げる策を進める検討が必要と考え、企業誘致をより推進することで、人口減少防止と少子高齢化防止及び地域産業の発展につながると思う。</p>	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	